

## 【vol.01】 C メジャーペンタトニックスケールを覚える ～その1～

では、講座の方を始めていきましょう。

まずはいきなりですが、C メジャーペンタトニックスケールを覚えます。

どんな分野にも、問答無用で覚えておかななくてはならないものがあるように、ギターにもそういったものがあるのです。

その内の1つがスケールになります。

“スケールとはどういったものなのか？”という解説は、次回以降に行いますので、とりあえずモノを覚えてしまいましょう。

そのほうが圧倒的に効率が良いので。

結局のところ、楽曲では、各種スケール内の音を使って、全てのメロディなり、フレーズなりが作られています。

なので“スケールを覚えている”ということは、“その曲、そのコード進行で問題なく使える音を知っている”ということになりますね。

ペンタトニックスケールには、5つのポジション(指板全体を5つに区切るということ)があるのですが、今回と次回で終わらせてしまいます。

解説自体は2回で終わりますが、スケールそのものは1回(1日)で覚える、という類のものではありません。

日々、基礎練習に組み込むなどして、ある程度の期間をかけて、身につけていくものです。

なので、できるだけ毎日、1回でもいいので各ポジションを弾いておく事をお勧めします。

では、いきましょう。

## ・Cメジャーペンタトニックスケール

### 図、ポジション1

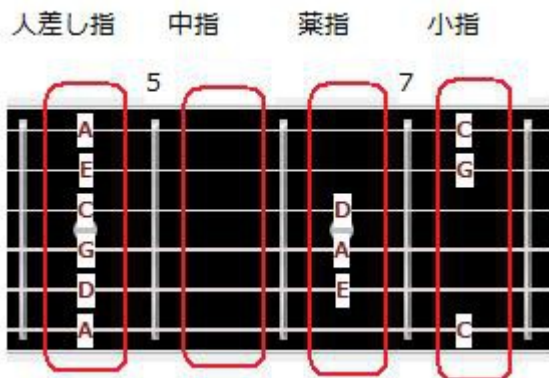


さて、まずはこのポジションを覚えるのですが、一番最初のトレーニングとして、フレットごとに使う指を固定して(決めて)練習してみましょう。

後々、実際に楽曲をプレイする時は、指使いは臨機応変に変えていくのですが、トレーニングとしてこれもやっておくと、指板を見なくても指が勝手に動くようになるので非常に便利です。

と言う事で、ポジション1の場合は、以下の図のように、使う指をフレットごとに固定します。

### 図、ポジション1、指使い



この図に指定してある通り、全ての弦に対して、フレットごとに使う指を決めます。

5フレットの音を弾く時は人差し指。  
6フレットは中指  
7フレットは薬指  
8フレットは小指

と言ったように。

このポジションだと、6フレットにスケールの構成音は無いので、  
中指は使わないことになりますね。

この指使いの指定を厳守して練習すると、今後、どこのキーに行っても、  
手がそのスケールポジション(形)を覚えているので、  
指板見なくても、そのスケールを弾くことが出来るようになります。

※キーに関しては今後やりますので、今は深く考えなくてもOKです。

練習譜例は以下です。

### ポジション 1、練習譜例

今回は『C』メジャーペンタトニックスケールなので、  
C=ドの音から始めて、ドの音で終わっています。  
(※6弦8フレットはC(ド)の音ですね。)

理論的な事は後々解説するので、とりあえず今は  
『ドの音を基準にしてメジャーペンタトニックスケールを弾いているんだ』  
と考えてください。

※詳しい解説は次回以降でします。

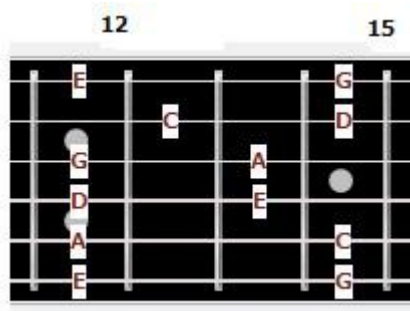
この練習では、  
“基準となる音から始めて、基準となる音で終わっている”  
ということ、しっかり認識しておくことが大事です。

後は先ほどもお話ししましたが、実際の楽曲を弾く時には、この指使いでは弾きにくい場合がありますので、自分なりに「弾きやすい」と感じる指使いでも練習してみましょう。

それでは、次のポジションにいきましょう。

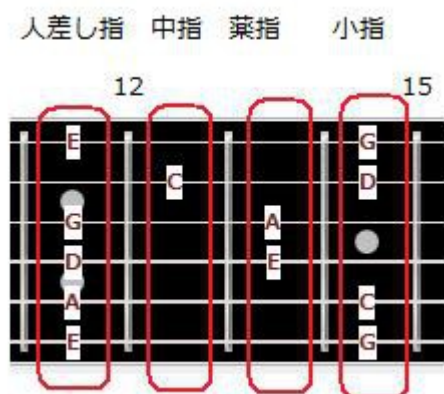
## ・C メジャーペンタニックスケール 2

### 図、ポジション 2



指使いはこの様になります。

### 図、ポジション 2、指使い



このポジションは、

12 フレットの音を弾く時は人差し指、  
13 フレットは中指  
14 フレットは薬指  
15 フレットは小指

ですね。

練習譜例は以下です。

## ポジション 2、練習譜例

The image shows a musical score for guitar. The top staff is a treble clef in 4/4 time, with a melody starting on the 15th fret of the 5th string. The melody is marked with a dynamic of *mf* and is divided into four measures. The bottom staff is a TAB system with three lines labeled T, A, and B. The fret numbers for each string are as follows:

Measure	T	A	B
1			15
2		12-14	12-14
3		13-15	12
4		15-12	15-12

こちらは5弦15フレットのC(ド)音を基準にして弾いています。

今回は、以上の2つのポジションを覚えてください。

今後、この辺りのポジションを使ったギターソロなどもやる予定ですが、その時、フレットごとに使う指を決めて行う練習の効果を実感できるはずです。

後々わかってきますが、この2つのポジションを基点に、大半のギターソロが演奏されています。

実際の演奏や、耳コピする時にも死ぬほど使うので、確実に覚えておきましょう。

vol.2では、メジャーペンタトニックのポジション5つの内、残りの3つを練習します。

可能であれば予習してみてくださいね。

## ～練習の提案～

さて、最初の方にも書きましたが、スケールというものは、1日(とか短期間)で全て覚える、というものではありません。(もちろん覚えてもいいんですが笑)

例えば上の練習譜例を、その日の内に100回弾いて覚えるとかよりも、“1日10回を3日”というようにしたほうが、より記憶に定着しやすいです。(※もちろん100回も弾いたら、ほぼ確実に覚えているとは思いますが)

実際の所、弾く回数を具体的に決める必要は無いのですが、区切りとしてわかりやすいので、あえてこういう言い方をしているところもあります。

現実的な練習案としては、

・1日あたり、上記の練習譜例を各1～10回程度弾く

これを2～3日とか一週間くらいやれば、おそらく暗記できていると思います。

で、後は実際に曲を弾く時に使っていれば、まず忘れません。

その『スケールを使うこと』についても後々やっていくので、それまでお待ちください。

もうすでにあなたが『普段からスケール使ってるよ』というならば、ガンガン使っちゃってください。

さて、今回からギタリスト必須のスキルを色々と学んでいくのですが、新しいことを覚える時の練習の順番としては、

- 1、譜面を見ながら覚える(覚える為に繰り返し弾いてみる)
- 2、譜面を見ないで弾く
- 3、メトロノームなどに合わせて弾く(クオリティを上げる)

この順番です。

譜面を見ないで弾けるようになるまでは、メトロノームを使わなくても構いません。

覚える作業と、スムーズに弾ける様になる為の作業は分けましょう。

それでは、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼